

第 96 回大腸癌研究会 遺伝性大腸癌委員会

議事録

- 日時：令和 4 年 1 月 20 日（木）10：15～10:45
- 場所：浜松町コンベンションホール 6F 大会議室 B
- ハイブリッド開催（現地＋Web 開催(Zoom)）
- 出席者：
〔委員長〕 富田尚裕
〔委員・オブザーバー〕 赤木 究、石岡千加史、石川敏昭、石川秀樹、石田秀行（＋同伴：母里淑子・近谷賢一）、石丸 啓、上野秀樹（代理：永田 健）、金光幸秀、小泉浩一、小森康司、坂本一博、佐々木和人（＋オブザーバー：坂元 慧）、菅野康吉、須藤 剛、主藤朝也、須並英二、関根茂樹、高雄暁成、竹内洋司、田中屋宏爾、千野晶子、問山裕二、中島 健、永坂岳司、能浦真吾、長谷川博俊、檜井孝夫、平田敬治（＋オブザーバー：秋山泰樹）、藤吉健司（オブザーバー）、松原長秀、松原孝明、松本主之、三口真司、宮倉安幸、三代雅明、山口達郎、山田岳史、山田真善、吉田直久、吉田玲子、吉松和彦（五十音順、敬称略） 以上 46 名 *事前登録の無い当日オブザーバー参加者は除く。
- 欠席委員：新井正美、石田文生、隈本謙介、小林宏寿、田村和朗、長壽寿矢、古川洋一

● 報告・審議事項

以下、1, 2 の確認あり。

1. 前回議事録の確認
2. 2021 年度末の最新委員リスト（→別添資料 1）

富田委員長から以下 3, 4 の報告あり。

3. 遺伝性大腸癌診療ガイドライン 2020 年版の日本医療評価機構、Minds サイトへの掲載について：

日本語版は、2021 年 12 月 21 日付けで、Minds ガイドラインライブラリ <https://minds.jcqh.or.jp/n/med/4/med0137/G0001216> に掲載。

英語版“Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) Guidelines 2020 for the Clinical Practice of Hereditary Colorectal Cancer.” は、PubMed、<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/34185173/>へのリンク形式で近日中に掲載予定。

4. FAP 一次研究の最終論文：“Morphological analyses of adenocarcinomas in Japanese familial adenomatous polyposis patients.” Suzuki Y. et al. 2021 年 11 月 15 日付けで Journal of the Anus, Rectum and Colon (JARC)に Accept、近日 Publish 予定。

5. 2 件の臨床研究の論文作成の進捗状況（→別添資料 2）

まず、富田委員長から、今回の会長・委員長の交代に伴って、論文の共著者ルールについて

前回の決定ルールから以下の改訂を行いたい旨の提案があり、承認された。

【改訂版】論文作成の際の共著者(Co-authorship)についての基本ルール：

- ① 筆頭著者の施設から筆頭著者を含めて 1-3 名（論文作成の貢献に応じて）
- ② 臨床研究事務局担当者（山口達郎）
- ③ 各臨床研究担当者（FAP 二次研究論文の場合：山口達郎、LS 内視鏡研究論文の場合：田中屋宏爾・千野晶子）
- ④ 研究代表者（冨田尚裕）
- ⑤ 遺伝性大腸癌委員会委員長（1 月以降は、田中屋宏爾）
- ⑥ 大腸癌研究会会長（1 月以降は、味岡洋一）
- ⑦ その他：投稿規定上で余裕があれば登録数の多い施設から数名（この部分は事務局・研究代表者・委員長に一任）。

次いで、事務局担当の山口達郎委員および各執筆担当者から個々の論文についての報告があった。

その 1, FAP 二次研究『家族性大腸腺腫症(FAP)に関する後方視的多施設共同二次研究』の論文化に関する進捗状況の報告 11 件

その 2, LS 内視鏡研究『後方視的観察研究による日本人リンチ症候群の大腸病変に対する消化器内視鏡研究』の論文化に関する進捗状況の報告 10 件

6. 「一般向けの大腸腺腫症とリンチ症候群のガイドライン」作成委員会のメンバーについて

冨田委員長から以下の報告あり。昨年、杉原健一会長から諮問あり、上記ガイドライン作成委員会の委員長（五井孝憲先生）からの依頼の下、ガイドライン作成委員会委員として、本委員会からは、田中屋宏爾・山口達郎・石田秀行・土井 悟・中島 健・川崎優子の 6 名を推薦し、石黒めぐみ先生・五井孝憲委員長を含めて 8 名の委員会構成が決定した。

7. 委員長の交代・および委員の見直しについて

冨田委員長から以下の報告あり。大腸癌研究会の委員長選任は会長の専権行為であるが、昨年 10 月に杉原健一会長および味岡洋一新会長から新委員長についての諮問あり、冨田から候補者数名の推薦を行い、その後、新委員長として田中屋宏爾先生決定の連絡あり。

以上から、本委員会終了後、委員長は冨田から田中屋宏爾先生へ交代となり、それに伴って委員会メンバーの見直しも近日中に行われる予定と報告。

以下、その他として追加議題（報告）あり。

8. 第 97 回大腸癌研究会開催のアナウンス

石田秀行委員より、第 97 回大腸癌研究会を当番世話人として開催する旨のアナウンスあり、主題 3 として“ミスマッチ修復欠損(MSI-H)大腸癌ー基礎と臨床の最前線ー”があり、是非とも演題応募をとの事。

9. 新旧両委員長の挨拶

退任の冨田から遺伝性大腸癌委員会の沿革についての簡単な紹介と共に、委員各位の長年の協力に対する謝辞があった。次いで、田中屋宏爾委員から新委員長としての抱負が述べられた。

文責：冨田尚裕